

日本 ロレアル賞 祝辞。2018. 07. 18. @フランス大使館公邸

政策研究大学院・東京大学 名誉教授 日本医療政策機代表理事 黒川 清

ローラン・ピック フランス大使閣下、ジェローム・ブルア ロレアル日本社長、当大使館の皆様、20年ぶり、二度目のワールドカップ優勝おめでとうございます。多くの方がテレビのライブで見たことでしょう、モスクワでの、誇り高いフランス代表チームと デシャンブ(Deschamps)監督と エマヌエル・マクロン(Macron)大統領閣下との 豪雨の表彰式、そして(Des) Champs-Elysees をいっぱい埋め尽くした大歓迎の人たち。日本チームもがんばったけれど、まだまだ歴史と経験の「カベ」を感じたことでした。私たちこの数週間は ワールドカップと ウィンブルドンで、寝れない夜を過ごしたものです。私もその一人でした。まだ寝不足です。

1. さて、今日 ロレアル賞のお祝いの日 — 私は、ロレアル賞の審査員を数年間務めて、忘れられない思い出があります。それは、記念すべき10周年、2008年の授賞式です。ロレアル本社、UNESCOの授賞式会場、そしてシャルル・ド・ゴール空港などで、10年間の受賞者の一人一人の大きな垂れ幕がここかしこにあふれていたことです。そして、この年、私たちの選んだ受賞者のお二人、Ada Yonathさんと Elizabeth Blackberryさんが、翌年2009年のノーベル賞を受賞した事です。ロレアル賞が、世界で一躍注目されるところまで来たな、と誇らしく感じた時でした。

2. さて、女性の活躍と日本の課題です。日本社会の常識では、例えば、三菱銀行の方は住友銀行へ移れない、日立のエンジニアは、パナソニックにうつれない。でもこれが常識だ、という国が他にあるでしょうか？ 最近の日本企業をはじめとしたいくつもの組織の統治の問題とスキャンダル。あの優良企業の代表だった〇〇製鋼、〇芝、はては福島原発の歴史的大事故。現場の人たちは問題を知っていても、なかなか発言が難しい、「上司」に反論できない社会文化です。「ヨコ」に動けない、上司に従わざるをえない「日本型 男性社会 の悲劇」です。

3. 女性は男性にはできない役割があり、モノの見方、価値観も違います。多様性、異質であること受容する社会こそが、これからの世界での大事な要素です。それは政治、企業、大学などなどの社会の制度や価値にも反映されるのです。研究のテーマの設定、アプローチも男性と女性では違うことも多いでしょう。女性の活躍を阻害している、極端な、ある意味で「自信のない」、「ひ弱な」、「群れる」男性の社会、これが「日本」の将来を危うくしているのです。世界のありようが急速に変わっていく時代、そのような日本の「男性社会」が、私は心配です。今日、お手元にお配りしたのは、10年前のScience誌のEditorial私の意見です。日本の大学は、この10年あまり変わっていないな、ということを確認してください。

4. ロレアルは、日本の女性研究者に大きな希望を与えています。そして 実にPRが上手な会社だな、と感心します。なにしろ、日本の家庭では「ご主人」が稼ぐ、そして「奥さま」に渡す、毎日のおこずかいを「奥さま」からもらう。「ご主人」は自分の背広を買うにも「奥様」の説得と許可が必要です。でも、奥様はご自分の買いたいものはご主人に相談なく買えるのです、ロレアルの商品もそうです。日本の家庭を統治しているのは、女性なのです。私のところもちろん例外ではありません。

5. そこで、日本の社会のいろいろなところでの活躍の場を、積極的に女性にも参加してもらおうとどうなるでしょうか？ これこそが これからの日本の大きな課題なのです。急速に変化していく、世界のありさまを見てみると、日本の「男性社会」が、なぜか心配になるのは、私だけでしょうか？

6. これを私の、今日の皆様への挨拶とさせていただきます。